

# 鶏卵の共励会と品質改善について

畜産課 神野 一雄

## まずは銘柄を通そう

今年の鶏卵生産は空前の大增産で、そのため市場では卵がだぶついて相場は崩れ、3月、4月ならいざ知らず、7月に産 140 円を割ると云ったこれまでにない低調市況でありました。最近では暑さのため各産地の産卵が下って来たため市場への出廻りが減少して、産 200 円を上廻る相場となっておりますが、この頃各産地での集団養鶏が発展、大羽数飼育への転換等で今後ますます鶏卵の生産量は急ピッチで上昇線を辿るものと観測されます。そうなりますとどうしても生産の方が消費を上廻る傾向が強くなって、鶏卵の相場は安くなって利潤が少なくなることを覚悟なくてはならないでしょう。こうなった場合鶏卵を有利に販売するにはどうしたらよいか問題となりますが、その方法の中で最も重要なことは鶏卵の品質を向上して、商品価値を高め銘柄を市場に通すことでもあります。

## それには品質の向上を

市場へ銘柄が通りますと、その組合の鶏卵は市場で引き手あまたとなって自然と相場はつり上って行くものです。それでは銘柄の通る鶏卵とはどんな商品でありましょうか・・・まず①鮮度が新しいこと。②量目が正しいこと。③大、中、小の選別がよくされていること。④卵の外かんがきれいであること。⑤奇型卵等の外かんがみにくい卵がないこと等です。それと定期的に荷物が市場へ出されることが必須条件であります。以上のような観点から県においても鶏卵の品質改善指導のためいろいろの施策を行なっておりますが、その第1は出荷組合が行なっている鶏卵の自主検査についての指導、第2には鶏卵共励会の開催があります。

## 品質荷造改善共励会

この共励会は今年が第5回目で、7月25日から7月29日の5日間阪神市場で開催されました。この共励会は岡山県の主催で、後援には阪神市場の各鶏卵荷受問屋が当り、期間中に入荷する各出荷組合の荷物を適宜抜取り、荷造りの状況を外装、内装につい

て、鶏卵の状況を内容、品質について審査採点し、成績優秀なる出荷組合を表彰して、鶏卵の品質改善の意欲を盛り立てることとしております。これが所謂抜取り検査で、検査日は出荷組合には知らせてないので、全くの不意打検査でありますから平素の姿そのままがかがえて非常に参考になります。この抜取り検査の成績を各出荷組合に通知して改善を促すわけです。

検査は毎年土用の最中を狙って実施しております。これは暑い時は卵の鮮度が1番落ちる時でありますので、検査の効果を一層上げるためにこの時期を選んでおります。夏場には何と云っても鮮度が良いと云うことが大1条件となります。大阪市場では夏になりますと地元の大阪府で生産された鶏卵所謂地玉は、他県産鶏卵所謂旅物よりは産に付き5円程度高く取引されます。これは地玉が毎日集卵のため旅物より段違いに鮮度が良いからであります。たまたま大阪で抜取り検査を行っていた際検査場に地玉の鶏卵がありましたので、試みに抜取ってその鮮度を検査してみましたところ評判にたがわず全く素晴らしい鮮度で、これでは夏場に値段の格差がつくのは無理がないと身に沁みて体験いたしました。

岡山県の場合も数量の相当量まとまるところでは現在の5日目毎の集卵出荷を、3日目毎の集卵出荷に切り換えてこの地玉との格差を縮めることが急務と考えられます。

出荷鶏卵の品質改善の重要なことは、前々からだれもが認めていることでありながら、実際には、すぐにとはいかない難しい問題である。しかし今後全国的に鶏卵生産が増加してくるとどうしても生産者自身が心掛けて品質の向上を図っていくことが必要となる。

岡山県移出鶏卵検査協会では今年の夏も阪神向出荷鶏卵を対象に品質荷造改善共励会を行なったが、その成績を中心に県畜産課養鶏担当係に改善について聞いてみた。なおその際成績優秀であった団体(農

## 岡山畜産便り 1961. 11・12

協)の表彰式が来る12月22日県庁で表彰されることになっている。

### 抜取検査の結果

一鮮度は向上、目立つ量目不足一

さて阪神市場での抜取り検査は連日荷受機関の人達の御協力によってスムーズに進行できましたが、その結果について述べてみましょう。

#### 外 装

検査組合数は109に及びましたが、先ず鶏卵箱の外装からみますと、箱に各出荷組合の組合名の書き入れ方が不鮮名なものが15、全く組合名を書いてないのが3つありました。これなどはまったく販売意識がないものと判定されます。次に大中小の記号を入れてないものが39の多きに達しております。こうした荷物は箱を開いて卵をとりだしてしまわないと、大卵やら小卵やら全く判らない云ったものであります。箱は新箱のものが42、古箱のものが67でありました。

#### 内 装

次に内装では保証表の入っていないものが12、保証表はあっても責任者名のないものが22ありました。フラット、ファイラーはおおむねしっかりとしていて良好でありました。詰方も大体正規のとおりとなっておりますが、中に逆詰されているものが僅かではありましたがみられました。次に卵そのものの状態ではありますが、殆んどのものにヒビ卵や傷卵がみられ、なかには輸送途中に傷んだのではなく荷造りの際既に傷んでいたと思われる卵も詰められていました。それに完全にこわれた卵も相当数見受けられました。

又卵の手入不足のものも相当数あり特にシミの付いた卵が1箱中に多いものが、全検査数の内24あり検査数の22%に達しております。次に選別の悪いものも多く、58組合のものが選別不良となり全体の実に53%に達し、市場での評判どおり岡山ものは選別が悪いと云う事実を裏書しております。

#### 量 目

量目不足のものも45組合にのぼり全体の41%とこれ又不成績でありました。中には10産詰で480瓦足らない荷物がありました。これは卵8.5個分に相

当し最も極端な例であります。これなどが荷造りの際に秤量作業に注意が不足しているものとみられます。量目不足は取引の信用にかかわることでもあります。充分注意が肝要であります。これは他県の話であります。量目不足があまり目に余るので、最近阪神市場での大問題となり1時はボイコット運動にまで発展しかねない状態まで行った事例もありますので、心すべきことでもあります。次に奇型の卵が相当数入っていることで、こうしたみにくい卵や殻の薄い卵、石灰質の粒子がついた卵等は出荷の対象とせず自家消費に振り向けることでもあります。

#### 鮮 度

全般的に卵の鮮度については昨年の検査に比べて非常に良くなっておりました。これは集卵日の厳守が徹底したのと、水洗い等の処理が少なくなったことにありそうです。しかしながら1部には腐った卵も出ておりますので、尚一層の注意が肝要です。

以上共励会の検査成績について申し上げましたが現在岡山ものが他県より1番見劣りするの選別が悪いことでもありますので、従来の部落集卵の部落単位荷造りを廃止して、農協単位の集合荷造りに切り換え、出来れば鶏卵選別機を導入して作業の能率と実効をあげたいものであります。